

製品名: LASP-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13220**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	LASP1
別名	LASP1; MLN50; LIM and SH3 domain protein 1; LASP-1; Metastatic lymph node gene 50 protein; MLN 50
遺伝子 ID	3927.0
SwissProt ID	Q14847
免疫原	抗血清はヒト LASP1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

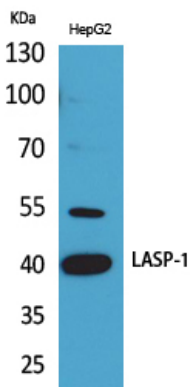
背景

この遺伝子は、LIMモチーフと Src 相同領域 3 のドメインを特徴とする LIM タンパク質サブファミリーのメンバー、およびアクチン結合タンパク質のネブリンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は cAMP および cGMP 依存性シグナル伝達タンパク質であり、細胞膜の突出部でアクチン細胞骨格に結合します。コードされているタンパク質は、転移性乳がん、B 細胞リンパ腫などの造血腫瘍、および大腸がんとの関連が報告されています。[RefSeq 提供、2012 年 10 月]、機能: アクチンを基盤とした動的な細胞骨格活性の制御において重要な役割を果たします。LASP1 リン酸化のアゴニスト依存性変化は、壁細胞だけでなく、他の特定の F-アクチンに富む分泌上皮細胞型においても、アクチン関連イオン輸送活性を制御する役割を果たす可能性がある。、PTM: リン酸化。、類似性: 1 つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。、類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。、類似性: 2 つのネブリン反復を含む。、細胞内位置: F-アクチンに富む皮質細胞骨格に関連。、サブユニット: F-アクチンと相互作用する。、

研究分野

-

画像データ



LASP-1 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。